

第2層圏域の現状と課題について(令和3年度)

地区	活動目標(地区福祉計画)	取組状況	今後の課題
久代小	①活動人材の確保 ②地域の居場所づくり ③交流事業の充実	①訪問型助けあい活動「にこにこ会」と他地区の活動者との懇談会を設け、活動の活性化を図る。 ②歩いて行ける距離の居場所の必要性を共有し、サロン再開に向け協議。 ③協議の止まっている久代小独自の災害時の取り組みも含め、地域課題を共有。	①部会以外の地域の各関係団体と検討の場を開催し、助けあい活動について検討の場を開催する必要がある。 ②サロン実施会場の見直し。 ③協議再開に向けた福祉ネットワーク会議の在り方や必要性をコミや自治会等関係団体も含め共有していく必要がある。
加茂小	①訪問型助けあい活動の活性化 ②人づくり ③遊び場づくり	①相談があれば、その都度理事会で共有し、対応できる人が対応するような形で取り組んでいる。 ②自治会長へ、福祉委員への加入を呼びかけ。または、サロン会に来ている住民から福祉委員になりたいと言ってくれる人から人材を確保している。 ③現在は4つの福祉活動拠点と、加茂ふれあい会館の交流室を使い、居場所でのつながりづくりに取り組んでいる。	①ボランティア部会のほのぼの会が活動休止状態となっており、部会としての活動はできていない。 ②こども会の解散など、こどもに関する活動の担い手が減少。 ③地域内でも坂のきついエリアがあり、高齢者には通いづらい。
川西小	①人材確保と育成 ②地域資源の活用、関係団体との連携・協働	①小学生への車いす体験学習を通して、障がい者への理解に努めた。 ②他地区の取り組みを通して、フードパントリーの立ち上げを検討を始めた。	①福祉委員が講師となり、住民を対象とした福祉講座の開催を検討。 ②NW会議等で、地域全体の各組織が具体的にできる支援について協議が必要。
桜小	①福祉活動人材の発掘・育成(地域福祉活動の維持継続) ②多様な人が集える場・つながる場の設定 ③小地域での見守り・声掛け・支え合い活動の推進	①居場所に参加してもらいながら、活動のお手伝いをしてくれる参加者を呼びけている。 ②新しく、一人暮らし高齢者が集える居場所の立ち上げを検討中。また、交流室さくらまでは遠くて来れない方でも参加できるように、各地の自治会館等を利用した活動で、新しい参加者を募る。 ③6つのエリアに分け、小地域の福祉活動についての懇談会を開催。福祉委員会、自治会、民生委員、地域包括などのメンバーで協議し、各エリアでの活動を検討している。まずは見守りの対象者となる人を把握するため、自治会館や民間施設を利用し、居場所やカフェを開催することになった。	①若い世代の担い手確保 ②自治会館や地域内の施設等の利用料について。住民に居場所の存在を知ってもらうためにも、毎月定期的に居場所を開きたいが、そうなるとうかなり利用料がかかる。 ③小地域内での見守りを行うにあたって、民生委員の協力があることはかなり大きいですが、個人情報の保護のため、民生委員が把握しているリストは公表できない。見守り対象者を把握する方法が居場所への参加を通じたつながりに限られる。
北小	①子どもが企画する地域活動・イベントの開催 ②子どもの地域福祉活動・ボランティア活動への参加を促す仕組みづくり ③関係団体と連携した地域環境の充実	①川北こども祭りなど子どもを中心としたコミの行事について、子どもが企画から関わる行事の開催を検討していたが、コロナ禍のためイベント等の開催はできなかった。 ②コミ、福祉委員会、小学校が連携し北小5.6年生にボランティア活動への参加を募り「北小めくもり活動隊」として、子どもと一緒に地域福祉に取り組もうとしている。 ③各自治会が開催するふれあいサロン(コロナ禍のため、一部自治会は中止)では、福祉委員会がお弁当を届けて交流した。また、地域包括やボランティアグループなどと連携した認知症カフェ「ものわすれカフェ」はコロナ禍のため一部開催にとどまった。	①感染状況も見ながら、企画を進めていく必要がある。 ②コロナで学校からストップがかかっており、活動が開始できていない。 ③事業の再開を通じた関係団体のつながり意識の醸成。

明峰小	①「今どき、向う三軒両隣」を目指す ②訪問型助けあい活動の推進 ③福祉の担い手としての人材発掘	①安心サポート(小地域の見守り活動)の実施。 ②たのみ隊による訪問型助けあい活動の推進。 ③地区広報紙や口コミなどによる人材確保。	①安心サポート(小地域の見守り活動)による見守り活動と専門職との連携の仕組みの構築。 ②依頼件数の増加に伴い、活動者を増やす。 ③自治会などとの関係性の構築を通じた人材の確保と育成。
多田	①支え合う地域の居場所づくり ②協議の場の活性化 ③福祉人材の増加と共育	①自治会単位によるふれあいサロンやオランジュ多田(認知症カフェ)などを実施。 ②福祉ネットワーク会議にて子ども食堂の実施に向けた協議を行う。 ③多田中学校PTA活動の休止などによる活動者の減少。	①令和4年度新規事業として開始される子ども食堂の実施。 ②令和4年度より休止となったボランティアあい(訪問型助けあい)の活動見直しなどの協議。 ③子ども食堂の実施を通じた若い世代の地域福祉活動への参画。
多田東	①地域の居場所づくりの充実 ②身近な支えあい、助けあい活動の推進 ③福祉活動を行う人材確保と育成	①ほっこのわ(ふれあいサロン)と合わせてオレンジのわ(認知症カフェ)の開始。 ②生活支援部会「なのはな」(訪問型助けあい)の活動推進。 ③チラシによる地域福祉活動の啓発と参加者募集。	①居場所の拡充の検討。 ②生活支援部会「なのはな」(訪問型たすけあい)の安定的な運営。 ③継続的な啓発による人材の確保と育成。
G H	①世代を超えてのつながりの居場所づくり ②高齢者が生き生きと暮らし続けられる地域づくり ③福祉活動の人材発掘・育成	①いこいカフェ、すまいる(子どもの居場所)などの効果的な運営。 ②家事援助部会(訪問型助けあい)や自治会実施の「あいねっと」などの生活支援の実施。 ③広報紙福祉委員会だよりや事業啓発チラシなどによる人材の確保。	①現存する居場所機能の拡充とマッチング。 ②生活支援活動からの気づきを専門職とのつなぎ。 ③継続的な啓発による人材の確保と育成。
清和台	①どんな時でも絶やさないうつながりづくり ②福祉活動を担う人材確保と育成 ③地域の資源を活かした居場所づくり	①「つながりサポート(ICTを活用した地域福祉活動)」の推進。住民同士が気軽にスマホを学びあえる場(「つながりサロン」)を設置。 ②福祉委員新任研修、福祉ネットワーク会議での啓発活動の実施。 ③高齢者が歩ける範囲での居場所づくり。	①wi-fi環境の整備。住民同士が学びあう際に手引書となるような資料の作成・入手。 ②自治会ブロック単位での啓発活動の実施。 ③活動拠点の確保、活動を担う人材(居場所の運営)の確保・養成。
けやき坂小	①福祉要支援者の見守り、支援活動の充実 ②健幸づくりの推進 ③福祉活動を行う人材確保と育成	①訪問型助けあい活動を行う「たすけ受けやき」が発足し12月より活動を開始。 ②歩いて行ける範囲での居場所の必要性を共有。けやき坂自治会に対し自治会館での居場所づくりを働きかけ。 ③新たな取り組み(「たすけ受けやき」)を通じた、福祉活動を行う新たな人材の確保。	①活動を担う人材(訪問型助けあい活動)の確保・養成。地域や専門職への活動の周知。 ②活動拠点の確保、活動を担う人材(居場所の運営)の確保・養成。 ③継続的な啓発などによる福祉活動者の育成、モチベーションの維持。
東谷	①支えあい・つながり(居場所づくり) ②支えあい・つながり(仕組みづくり) ③支えあい・つながり(地域での助けあい)	①サロンを実施している自治会と徒歩圏内での居場所の必要性について共有。3世代交流福祉まつりを開催し、多世代交流の集い、啓発活動の実施。 ②フードパントリーの継続した開催。 ③訪問型助けあい活動(「ここほっと」と地域包括等関係機関と連携した支援の実施。	①サロン再開と至らなかった自治会への再開に向けたアプローチの継続。 ②子ども食堂実施に向けた運営支援等。 ③地域の居場所や相談窓口などと連動した助けあい活動となるよう働きかけ。
大和	①誰もが参加できる居場所づくり ②福祉活動を担う人材確保と育成 ③安心して住み続けられる高齢者や障がい者などの支援の充実	①大和ハウス工業と地域が連携した取り組みの具現化に向けた協議の実施。 ②幅広い世代やどんな時でもつながれる仕組みづくりに向けたICTを活用した取り組みの検討。 ③バス問題に関わる情報共有、地域住民へポスター等での啓発活動。	①企業と地域が連携した取り組みの具現化に向けた検討事項の共有。 ②Wi-Fi環境の整備、学びあいの場づくりの支援。 ③移動手段や環境整備等について関係課との情報共有。
北陵	①福祉活動を担う人材確保と育成 ②地域住民の居場所づくり ③各種団体との連携	①ちょっとだけボランティアや幅広い世代の住民が参加しやすい体制づくり。(訪問型助けあい活動「ひまわり」の活動見直し) ②北陵集会所のWi-Fi環境を活かしたい居場所づくりの検討。 ③福祉ネットワーク会議の開催を計画しているが、明確な議題が定まっていない。	①集会所横の幼稚園やその他関係団体と連携した体制づくり。LINEを活用した広報の充実。 ②どんな時でもつながれる仕組みづくり、住民同士でLINE等の学びあいの場実施に向けた開催支援。 ③協議が必要な地域課題を地域包括支援センターなどとも情報共有を図り、協議の場の活発化を図る必要がある。